

教の協だより

東山梨教育協議会
No. 3

事務局
Tel : 33-2635
Fax : 33-3944
Mail : kenkyu@e103.net

教育講演会のお知らせ

夜回り先生

水谷 修 (みずたに おさむ) 氏

演題 「今、子どもたちは」 ～私たちにできること、しなければならないこと～

「国民生活基礎調査」により、「子どもの貧困率」が過去最悪を更新しました。今や18歳未満の子どもの6人に1人、全国で300万人余りが貧困層に当たることが分かっています。そして、この状況は、経済的な理由による学力格差だけではなく、将来的な「貧困の連鎖」をもたらすものとして社会問題化しています。日々の教育活動の中で、この現状を実感されている先生方も少なくないのではないでしょうか。

家庭で、あるいは中学校や高校の教室で、子どもたちの目を見てみてください。瞳は輝いていますか。あしたの夢をもつことができずに明日を捨て、自分の存在すらも見失い、何のために生きているのかわからなくなっている、追いつめられた子どもたちの目が輝くわけがありません。でも、子どもたちをここまで追いつめているのは、いったい誰なのでしょう。

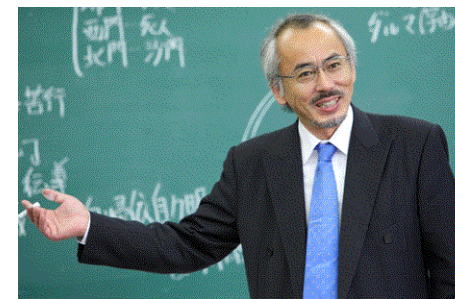
いまの日本で、この「目力」のない、生きる気力を失った子どもたちが増えています。このままでは日本の多くの子どもたちが死んでしまいます。自殺という形で身体を殺す子どもたちも増えていくでしょう。でもそれ以上に、自らのところを殺してしまって、薬物やただ一夜のなぐさめに救いを求める子どもたちや、あるいはバーチャルという仮想現実の世界のなかで、インターネットのサイトや携帯電話、メールと向き合っただけで生きられない子どもたちが、今後ものすごい勢いで増えていくのではないのでしょうか。私たちの国はどうなるのでしょうか。私たちの大切な子どもたちはどうなってしまうのでしょうか。

(水谷 修 オフィシャルウェブサイト より)

水谷先生のこの問いは、教育現場で直面している喫緊の課題のひとつです。そして、この国が、目の前の子どもたちが、そのような未来を迎えることが無いようにすることが、私たち教職員の使命ではないでしょうか。

言わずと知れた「夜回り先生」水谷修先生は、深夜の繁華街でのパトロールを通して、多くの子ども、保護者たちと出会い、その人生に触れ、命を救ってこられました。そのご経験を切り口に、子どもの貧困の現状や問題点、そして、私たち教職員が見過ごしてはならない子どもたちからのサイン、更には、そんな子どもたちや保護者たちに私たち教職員ができること等、様々なご示唆をいただけることと思います。

全会員の参加はもちろん、保護者・地域の皆様にも、積極的に声をかけていただき、教職員以外にも多くの方が参加していただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



1956年、横浜に生まれ。少年期を山形にて過ごす。上智大学文学部哲学科卒業。横浜市にて、長く高校の教職員として勤務。12年間で定時制高校で過ごす。

教職員生活のほとんどの時期、生徒指導を担当し、中・高校生の非行・薬物汚染・心の問題に関わり、生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の拡大の予防のための活動を精力的に行なっている。

また、若者たちから「夜回り」と呼ばれている深夜の繁華街のパトロールを通して、多くの若者たちとふれあい、彼らの非行防止と更生にとりくんでいる。

一方で、全国各地からのメールや電話による様々な子どもたちからの相談に答え、子どもたちの不登校や心の病、自殺などの問題に関わっている。

その現場での経験をもとに、専門誌や新聞、雑誌への執筆、テレビ、ラジオなどへの出演、日本各地での講演などを通して、子どもたちが今直面している様々な問題について訴えている。現在、花園大学客員教授。

主な著書

「夜回り先生、いのちの授業」日本評論社

「夜回り先生、なんでドラッグを使ってはいけないんですか？」東山書房

他多数

日時：8月5日 (金)

受付：9:30～ 開会：9:45

場所：いちのみや桃の里ふれあい文化館

駐車場は130台程ですので、1台3名以上の乗り合わせにご理解とご協力をお願いします。